

「530運動」の提唱と展開

「自分のゴミは自分で持ち帰る」のは登山のマナー

1969(S44)年10月、弓張山系に豊橋自然歩道推進協議会と当会が中心となって、豊橋自然歩道が整備され、多くのハイカーが訪れるようになった。しかし、利用されて喜ばしい反面、山道に捨てられている空き缶などのゴミは目にあまるものがあった。自然保護と環境面から清掃が行なわれたが、片づけてもまた捨てられる悪循環の繰り返しであった。

自然をこよなく愛していた夏目久男(当時会長)は、1975(S50)年5月登山の経験から、「自分のゴミは自分で持ち帰る」のは登山のマナーであり、一般社会にも当てはまると考えた。そして、美しい街づくりを目指



1975年 530運動の看板設置

指すため、新しいイメージの運動が必要と考え、「530運動」の推進を市に提唱した。

同年7月16日、この運動に行政側も賛同と強い熱意を示し、官民一体の「530運動推進連絡会」が設立された。夏目久男も「530運動推進連絡会」の副会長となって活動した。

同年8月31日、提唱団体の当会は早速、「自分のゴミは自分で持ち帰ろう」を合い言葉に、立看板設置や清掃奉仕作業を実施した。

運動の輪は豊橋市から全国へ

「530運動」は清掃活動としてゴミを拾うだけでなく、捨てない心を養う啓蒙活動として展開された。更に全市一斉の「530運動」に発展し、企業、老人会、婦人会、青年団などの団体や、小中学校及び高等学校も加わり、連帯の輪は市全体に定着していった。その後、この活動の輪は全国へと広がり、1979(S54)年3月には全国組織の「530運動総連合」が結成されるまでになった。



1980年 記念碑と夏目久男